

# 「管カメラマニュアル」を発刊

## 全国水道管内カメラ調査協会

全国水道管内カメラ調査協会（杉戸大作会長）はこのほど、カメラ調査の手順や診断評価のノウハウ、報告書作成の要領などを網羅した「水道管内カメラ診断評価マニュアル」を発刊した。

同協会は平成26年5月、水道管内カメラ調査の概要や特長などをまとめた「管カメラハンドブック」を発刊。以降、調査件数の増加により、診断評

価手法や報告書作成のマニュアル化が求められていた。

作成にあたっては、評価項目・基準の明確化や、報告書作成の統一化を図るため、第三者でもわかりやすいよう写真や図表やデータ類を豊富に使用した。さらに、実際の水道事業体で実施した調査事例も盛り込み、実務担当者はもちろん、多くの水道関係者がカメラ調査について正しく理解できる内容となっている。

内容は「水道管内カメラ調査の概要」「管内カメラ調査の手順」「管内評価方法」「管内劣化の対応策」などの5章で構成。「管内評価方法」では、S、Dの5段階でランク付けされた管内の劣化状況を事例写真で紹介している。このほか、業務で使用するチェックシートを協会ホームページからダウンロードできるようにしている。

発刊に向けての作業は、管内面診断評価委員会（委員長：小泉明・東京都立大学特任教授）を中心に平成29年度から進められた。約3年間で、これまでの活動の集大成として今年10月の発刊に至った。

発刊にあたり杉戸会長は「ハンドブックを発刊して以来、調査件数が約5400件、管路延長で300キ以上となり、管内カメラ調査に対する理解や関心は深まったと考えられている。本マニュアルは、各種アンケート結果や論文も掲載するなど、基礎資料としても価値の高いものとなっており、ぜひ実務で役立てていただきたい」と話している。



写真や図表が豊富でより分かりやすい内容に

## 診断から報告書作成まで網羅